

生体肝移植ドナー術後合併症の時代的変遷とその対策に関する検討

九州大学病院、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科において1996年10月1日から2015年5月31日までに生体肝移植ドナー手術を受けた方を対象

【はじめに】生体肝移植においてドナーの安全性は最優先される事項です。生体肝移植ドナー手術は腹部手術の中で大手術の範疇に入り、術後合併症も一定の確率で発生します。九州大学病院では1996年10月に1例目の生体肝移植を行い、その後の経験の蓄積によりドナーの術後合併症の頻度は低下してきています。ドナー術後合併症を減らすために、これまでに様々な取り組みを行ってきました。その取り組みによりいかにドナー術後合併症の種類、頻度が変わってきたかを検証することにより、生体肝移植ドナー手術がさらに安全なものになることが期待されます。**【研究内容】**1996年10月1日から2015年5月31日までに九州大学病院で生体肝移植ドナー手術を受けた576人のドナーを対象とします(後区域グラフト提供者を除く)。ドナー術前臨床情報(年齢、性別、身長、体重、肝volumetryデータ、グラフト種類、手術手技)を診療録より取得します。該当するドナーの術後合併症(Clavien grade 2以上)の有無を診療録より取得します。ドナーを手術年月日により以下の4期に分け、期間ごと、そしてグラフトの種類ごとに合併症の種類を分類し、それらを比較検討します。

- ① 第一期: 1996年10月～2004年3月
- ② 第二期: 2004年4月～2008年3月
- ③ 第三期: 2008年4月～2012年3月
- ④ 第四期: 2012年4月～2015年5月

【患者さんの個人情報管理について】個人を特定できる情報については匿名化し、厳重な管理を行います。本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

【研究期間】研究を行う期間は承認日から2016年3月31日です。

【医学上の貢献】この研究により生体肝移植ドナー手術がより安全性の高いものになることが期待されます。

【研究機関の長】

九州大学病院長 石橋 達朗

【研究計画書および研究の方法に関する資料について】

研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することができます。ご希望される場合は、下記連絡先までご連絡ください。

【個人情報の開示について】

本人等からの開示の求めに応じて、保有する個人情報のうちその本人に関するものについてのみ開示を行います。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 外科集学的治療学講座
准教授 内山秀昭 (責任者)

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院 消化器・総合外科医局

Tel; 092-642-5466

内山 秀昭